

中野区教育委員会会議録 平成25年第1回臨時会

○開会日 平成25年3月1日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後 7時00分

○閉 会 午後 8時17分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員	山 田 正 興
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	高 橋 信 一
副参事(子ども教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	石 濱 良 行
副参事(学校教育担当)	宇田川 直 子
指導室長	川 島 隆 宏
副参事(知的資産担当)・中央図書館長	天 野 秀 幸
副参事(学校・地域連携担当)	荒 井 弘 巳
副参事(子ども教育施設担当)	伊 藤 正 秀

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長

高 木 明 郎

委 員

大 島 やよい

○傍聴者数            0人

○議事日程

[協議事項]

(1) 中野区立小中学校再編計画（第2次）について（学校再編担当）

中野区 教育委員会  
第 1 回臨時会  
(平成 2 5 年 3 月 1 日)

午後 7 時 0 0 分開会

高木委員長

ただいまから、教育委員会第 1 回臨時会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、大島委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

< 協議事項 >

高木委員長

それでは協議事項、「中野区立小中学校再編計画（第 2 次）について」の協議を行います。

事務局から資料の説明をお願いいたします。

副参事（学校再編担当）

本日、資料 2 点用意しております。

始めに、中野区立小中学校再編計画（第 2 次）【案】に関するパブリックコメント手続の実施結果についてでございます。

意見募集は 2 月 5 日から 2 月 26 日まで行いました。合計で 36 人から意見が提出され、提出方法は資料に記載のとおりです。

提出された意見の概要と、それに対する教育委員会の考え方の案は資料に記載をしております。左側が提出された意見の概要、右側が意見に対する教育委員会の考え方の（案）でございます。

意見の概要といたしましては、まず、再編計画改定全般についてということで、地域住民への説明が十分に行われていないという意見、それから、資料の 2 ページになりますけれども、「はじめに」の記載の中で、小中学校の連携の推進を明確にしてほしいという意見がありました。

次に中野区が目指す教育の姿について、小中一貫教育のモデル校の設置についての意見がありました。

次に再編計画改定に関する考え方について、仮校舎への通学や、統合新校への通学についての安全面での不安についての意見がありました。

次に、通学区域の見直しについて。緑野中の通学区域の見直しについて、意見がありました。

次に、中野神明小学校と多田小学校、新山小学校の統合について、新山小を存続してほしいという意見や、資料の3ページになりますが、3校の統合ではなく、新山小と多田小の2校の統合にしてほしいという意見がありました。

次に第三中学校と第十中学校の統合について、第三中を残して欲しいという意見や、第三中を統合新校にすべきであるという意見、それから、資料の4ページになりますが、中野六丁目は中野中に通学区域の変更をしてほしいという意見がありました。

次に桃園小学校と向台小学校の統合について、子どもたちの精神面でのケアを行ってほしいという意見がありました。

次に北中野中学校の通学区域の変更について、新たな通学区域を設定するよう、変更してほしいという意見がありました。

次に、指定校変更の取り扱いについて、中学生にも通学距離による指定校変更を認めてほしいという意見がありました。

次に資料の5ページになりますが、その他として、再編校の年度ごとの児童、生徒数、学級数を掲載してほしいという意見や、向台小学校の跡地の利用についての意見、避難所の確保についての意見がありました。

次に4、提出された意見により、変更した箇所とその理由の案です。資料に記載しておりますけれども、この変更につきましては、本日、学校再編計画(第2次)につきまして、パブリックコメント手続を反映した協議をお願いいたします。その結果により、掲載内容が固まりますけれども、案ということで資料に記載をしております。この変更点は資料の2ページの意見に、これを反映したことにより、「はじめに」の部分の文章構成を変更するものでございます。

次に、もう1点の資料、変更点の資料でございます。

こちらはパブリックコメント手続を反映した、案からの変更点です。ただいま、パブリックコメント手続の結果についての報告をしたとおり、変更点として、「はじめに」の部分の文章構成を変更しております。これは、パブリックコメントの資料2ページ、意見にこれを反映したもので、学校再編計画改定の柱として、学校の小規模化の解消、それから小中連携等の推進、そして、校舎の老朽化への対応、これらを考えておりますけれども、それがわかりやすくなるよう、文章構成を改めたものです。それから、終わりの3行につきましては、これまで、素案、案といった計画の改定の段階での記載となっておりますので、学校再編計画(第2次)とすることにあわせて記載を修正するものです。

説明は以上です。

高木委員長

ただいまの説明について、ご質問、ご発言がありましたらお願いいたします。

山田委員

貴重なご意見を36件いただいたということでもありますけれども、「はじめに」ということの、2ページ目にありますように、小中連携を推進することもちろん、私たちの考え方の一つですけれども、それを文章の中で少し強調するということが大切ではないかなと思ひまして、この意見を反映することは大切なことではないかなと思ひます。

その下にあります、仮校舎までのということ、工期をできる限り短期間としということですが、これは、回答の中では、短期間となるよう工夫しということがありますが、どのような工夫が実際にはできるのか、お尋ねしたいのですけれども。いかがでしょうか。

副参事（学校再編担当）

仮校舎の期間なのですけれども、工期については2年程度、これを見込んでおります。移転の時期につきましては、年度の途中での移転というのはなかなか難しいというふうに考えておりますので、2年間は仮校舎へ通っていただくという形になろうかというふうに思っております。その期間の通学の安全については、十分な配慮をしていきたいというふうに考えております。

教育長

それでは、ここの表現は、今学校再編担当副参事が述べたような趣旨で事務局のほうで訂正させていただきたいと思ひます。

大島委員

2ページの最後のところに出てくる「中野神明学校・多田小学校・新山小学校」のところの意見の中で、「神明小学校は一つで単独で残して、あとの二つを統合したらどうか」というようなご意見があつて、神明小学校と新山小学校を統合すると、新山小学校を吸収合併するイメージをPTAの方とか持っているというのがあつて、ショックといいますか、本当だろうかと思うのですけれども、この辺について何か情報を持っていらっしゃいますか。

副参事（学校再編担当）

吸収合併というイメージを持たれるというのは、おそらく今いる児童数の差によるもの

だというふうに思っております。神明小学校のほうが丸々1校分の児童がいます。そこへ小規模化している新山小の児童と統合新校をつくっていくという形になりますので、新山小の少ない児童の親から見ると、吸収合併されてしまうのではないかというような不安を持たれるのだというふうに思います。

このことにつきましては、統合の対象になる学校、これはいずれも廃止をして新しい学校をつくっていくのだという教育委員会での考えがございます。したがって、決して吸収合併ではなく新しい学校をつくっていくのだ。これを今までも言ってきましたし、これから統合に当たっての検討の中でも繰り返し説明をしていくということで解消していきたいというふうに考えております。

山田委員

補足ですけれども、前期の学校再編の中でも、かなり児童数に差があった学校が統合していくということを行ったわけです。それも今、副参事がおっしゃったとおり吸収とかそういう表現ではなく、対等に3校を2校に新しい学校をつくるのですよということで、その児童・生徒への配慮も、ご質問にも、きょうのパブコメにも出てきていますけれども、十分に校内体制を強化するかスクールカウンセラーを配置するというので、子どもたちの心のケアもしていくということで、今の新山小のことにしても、そういった危惧を持っている方がいらっしゃるのであれば、それは丁寧に説明していなければいけないのかなと思います。

飛鳥馬委員

1ページの1番の意見のところに「地域や子どもたちの意見を聞いてほしい」という意見がございますが、私たちとしては今まで十分パブリックコメント等やりまして説明したつもりであります。しかし具体的に自分の学校のことを子どもたちが心配になるようなことがあるかもしれませんので、そういう子どもたちに対する不安を和らげるといいますか、疑問を解消できるような、そんな機会があったらいいなと思いますがどうでしょうか。

副参事（学校再編担当）

子どもたちから意見を聞くことにつきましては、直接計画についてということを考えてはおりませんが、前期の再編、これに関しましては、統合した学校の子どもたちにアンケート等で意見を聞いております。その結果、統合に際して不安を持っている子どもたちが多かったということがございますので、それにつきましては十分に受けとめてケアをしていきたいというふうに考えております。

大島委員

ちょっと確認というか、もう一回教えてもらいたいのですけれども、2ページの②通学区域の見直しについてのところで6番の質問なのですけれども、新井二丁目の何番何番という、「緑野中から遠いので、通学区域を中野中学校に変更してほしい」ということなのですけれども、それで教育委員会の回答案では「この地域は、小中学校の通学区域の整合性は図られていないが、学校規模の関係などから通学区域を変更することは難しい」ということなのです。この区域は、中野中学校のほうが近いのですでしたか。何で緑野中にしたのか、その辺の経緯をもう一度おさらいしたいのですけれども。

副参事（学校再編担当）

小学校と中学校の通学区域の整合性を図るために、通学区域を見直すということを大きな柱にしました。見直しの考え方の中で、現行の通学区域はできる限り尊重するということがございました。したがって、新井二丁目、この地域につきましては、現在緑野中の通学区域になっております。平和の森小学校から緑野中へ通う通学区域になっております。したがって、現状のまま平和の森小から緑野中へ通うということで考えたところでは。

大島委員

ということは、我々の目的の一つとして、中学校を核として、そこに二つから三つの小学校が一つのグループになる、そういう形を目指していきたいというのがあったわけですが、この地域については緑野中に行くのに、今言った平和の森小も一つのグループを形成する、そういう形に持っていくためには、今言ったように平和の森小から緑野中というグループにしておく必要がある、そういうことでよろしいでしょうか。

副参事（学校再編担当）

平和の森小学校につきましては、中学校と整合性が完全に図られない小学校の一つになっております。平和の森小学校からは緑野中と中野中と二つの中学校に進学をしていくこととなります。したがって、この意見では中野中のほうに変更してほしいというような意見が出てきたのかなというふうに考えております。

高木委員長

現状でこのエリアは緑野中なのですよね。ですから今回の学校再編とは全く関係がなく、学校再編があろうとなかろうと緑野中で、中野中、旧中央中ではないエリア、平和の森小の統合したときということですよ。



ですからこれに関してはパブコメですから、これはいかにということはないのですが、小中学校再編計画に伴う意見というよりも、単独に、ほかにもたしか、4ページの16番で「中学生も小学生と同様に、通学距離により指定校変更を認めてほしい」ということと趣旨としては同じですよ。明らかに近い——明らかと言うと語弊がある。「近い中学校があって、より遠くに通わなくてはいけないことについて、小学生は認められるのになぜ中学生はだめなのですか」という素朴なご意見なのです。それはやはり指定校制度により通学区域を定めているのでしかたのない事だと思います。

特に中野中のところには先行して学校再編をやったということがあって、通学区域も若干整合性がとれていないところもありますから、ただ、ここにお住まいの方には申しわけないのですけれども、今この学校再編で変えるのはちょっと難しいかな。現在通っている生徒さんには、先々検討と言われてもあれかもしれませんが、ただ、指定校変更のことについて、ほかの小学校に通学している方からも疑問が出ていて、我々としては適正にやっていると思うのですが、区民の方がもし疑問に思ったとすると、もうちょっとそこら辺の基準を明確化する必要があるのではないかなとか、そういう検討は多分再編が一段落した段階で、通学区域の小中学校の整合性が100%とれていないところがありますから、そこは一応確認というか、見直しするようなことになっていると思いますので、多分そういったところで検討するかなと思います。

大島委員

ご説明でよくわかりました。要するに再編計画ということとは別個にこういう通学距離の問題でご要望があるということはわかりました。ただ、そういう問題というのは、どういふふうに通学区域を設定しても、自分のところが決められたところよりほかの学校のほうが実は近いのだというような地域が学校区域の端っこのほうでは出てきてしまうということはどうしても避けられないことでもあるので、そういう意味でほかにもこういう事例といいますか、出てくることもあるかとは思いますが、ちょっとそれはやむを得ないことだという、その一つの例がこの意見に出てきているというふうに理解いたしました。

高木委員長

2ページの7番のご意見ですが、「新山小学校は単学級でも学校運営がうまくできている。また、競争力を養うという意味でも、現在の枠組みにおいての工夫で対処も可能だと思う。新山小学校を存続してほしい」。こういったご意見は、意見交換でもおっしゃられ

て、我々としても新山小学校がだめな学校だから再編するのではありませんよということ  
をその都度お話ししているつもりなのですが、やっぱり我々のアピール力が足りないのか  
など。

現状、新山小学校、我々も訪問に行ったりする機会がありますから、大変いい学校だと  
思います。ただ、これからどんどんさらに少子化が進んでいったり、あるいは教員構成が  
今いびつで団塊の世代の方が抜けていって若手の先生だけになっているときに、やっぱり  
単学級だとなかなか、今できたことが将来にわたってできるかという、難しいというこ  
とをもうちょっとご説明しないとイケない。ですから新山小学校はいい学校なのだけれど  
も、やっぱり将来的に考えると、今エリアの中で3校を2校に統合していくことがどうし  
ても必要だということを都度都度お話をしていくことがすごく大切なのかなと思っており  
ます。教育委員会の考え方としてはこれでいいと思います。

飛鳥馬委員

4 ページの15番のところの北中野中学校の通学区域変更の件ですが、回答のほうですけ  
れども、下から4行目のところに「また、通学区域変更しても、この地域は住民登録者数  
の教育人口が増加している」という、これはちょっとわかりにくいので、教育人口とい  
うのは子どもたちのことを言っているのかどうか。増加しているという、今まで増加してき  
た。これからも増加する可能性。「増加している地域であるため望ましい」と書いてある  
のですけれども、これはわかるというか、どういうふうに解釈したらいいか説明してくだ  
さい。

副参事（学校再編担当）

今、飛鳥馬委員がおっしゃったとおり、住民登録者数のうち子どもの人口、教育にかか  
る人口、これが増加している地域であるという意味でございます。表現として少しわかり  
にくいということでしたら、表現について改めたいというふうに思っております。

大島委員

児童数ということですか。

副参事（学校再編担当）

具体的なことを書くのではなくて、「住民登録者数の推移から見て望ましい学級規模が  
維持できる」というような表現にしたいなというふうに考えます。

山田委員

2 ページ目にあります2 のパブリックコメントなのですけれども、「はじめに」の中で

「小中学校の連携を推進することが、大きな柱であるのなら、小中学校の連携を推進することで魅力ある学校にしていくということを前面に押し出したほうがよいのではないでしょうか」という建設的なご意見をいただいたわけですが、そのことでの表現として、「小中学校の連携や学校と地域、家庭との連携の推進を図ることを重要な視点とした」という表現でとどめるのか、その辺はいかがでしょうか。

副参事（学校再編担当）

小中連携についてのご意見をいただきました。そのことについて、この再編計画の改定、これに当たりまして、教育委員会としても重要な柱にしているということで「重要な視点」という形でここには記載をしております。

それを受けてどうするのかということなのですから、それを受けて「はじめに」の中で少し表現の工夫、そういったことを検討していくということは可能だと思いますので、そういったことを表記するような形にするということではいかがでしょうか。

山田委員

では、このご意見をいただいたことを受けて、少し小中連携というものを推進するという大きな視点であるということを強調するような文面にすることをお願いいたします。

5ページにあります18番、「向台小学校跡地について、新校舎の移転後も継続して校地を開放する等、引き続き子どもたち・地域のための場としてほしい」。一方では、3ページにあります10番、「活用に向けた整備が進まない東中野小学校や旧住吉保育園の跡地、放置されたままの旧教職員寮などの行政の不信感があること」というようなコメントをいただいているわけですが、実際には今回の再編計画では、学校の校数も小学校では約3分の2に減じていってしまうということになるわけで、やはり区民の大切な財産である学校の跡地ということに対しては、区民も地域の核としていろいろと活用していきたい。教育委員会としても、教育委員会の活用などが考えられる場合には、担当部署に要望することが書いてありますけれども、それをもう一度確認したいのです。大切な財産をどのように運用するかというのは非常に重要なことではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

副参事（学校再編担当）

意見交換会の中でも学校の跡地についての活用、これについての意見がたくさん寄せられました。それに当たりましては、区全体で考えていくことだということで、所管のほう

に伝えて、そちらのほうでこれから検討するということでお答えをしております。今回もこういった意見が寄せられておりますので、それについては所管のほうに伝えまして、区全体としてこれからの活用、それに当たっては区民の要望、そういったことも取れ入れながら考えていく、そういう形になろうというふうに考えております。

大島委員

5 ページの19のところのご意見なのですけれども、「統合新校の設置場所を机上の案のみで決めていることに反対である」というのがあって、それからこの方は四中を応援してきたので、「地域に足を運び理解を求める行動をとるべきである」ということで、答へのほうは「意見交換会等で説明をした」というような趣旨のことが書かれていて、この答えというのは、後段のほうの「理解を求める行動をとるべきだ」ということに対して、「説明などやっています」という答えだと思うのですけれども、始めのほうの「設置場所を机上の案のみで決めている」という、我々は机上の案のみで決めているというつもりはなく、紙の上だけではなく各学校のいろいろな実情も考えながら総合的に考えたし、我々は各学校に対して等しく愛情を持ち、我々も教育活動に熱意を持って応援はしてきているのだけれども、しかし再編計画でいろいろ統合される場所も出てきたわけなのです。その辺の我々の思いというのが伝わっていないのかなという気がしまして、机上だけで決めているということについて、我々の思いを回答したらどうかなという気がするのですけれども、どんなものでしょうか。

高木委員長

多分この意見を出された方は、教育委員は四中に来たことないのでしょうかという理解だと思うのですが、我々全員1回ならず行っていると思うのです。私は教育委員としても行っていますし、四中は学校のボランティア活動で年間5回ぐらい行っていますから、それ以外の中学校でも小学校でも、区内の小学校、中学校、幼稚園は全部1回以上、多分平均すると3回ぐらい行っていますので、全く机の上で紙だけでパパッと線を引いたのではないのですが、なかなかそれを我々のアピールが下手なので、やっていますよというのがないので区民の方にわかっていただけないと思うのです。

大島委員

そのとおりなのです。ですけれども、ご意見がこういうふうに活字になっているので、我々のほうでも「設置場所の選定に当たっては、机上の論議だけでなく総合的に諸事情を勘案して決めた」とか「現地の実情等も考慮の上」とか、何か「決めたものです」とか、

ちょっと一文欲しいなという気がするのですけれども。

副参事（学校再編担当）

机上の空論のみで決めているのではないというようなこともあります。実際に教育委員会としましては、年間を通じて学校現場を訪問して現状の把握に努めております。そういったことをこの回答の中に記載をするというようなことを考えたいと思います。

また、協議をし、協議の中でも学校の実情、これについて勘案しているというようなこともございますので、そういったこともこの中に記載をしていくということでいかがでしょうか。

大島委員

結構だと思いますので、よろしく願いいたします。

高木委員長

3ページの第三中、第十中学校の統合のところなのですが、こちらも意見交換会で地域の方からだいぶ意見をいただきました。我々としても、地元の中学校を応援して愛してくださる気持ちは本当にありがたいと思っております。やはりこのエリアの学校の配置を一番効率的といいますか、合理的にこれからの中野の教育がうまくいくようにすると、どうしても十中のほうがロケーションというか、いろいろな条件でまさっている。確かに校地面積の大小が最優先の理由にはならないのですけれども、やっぱりそこで明らかに優位に十中のほうが大きいですし、用途がしやすい。

あるいは通学距離が遠くというのは、確かに今、この発言をされた方から見ればそうなのでしょうけれども、区域全体から見ると十中のほうが平均的には通学しやすくなるというのもありますので、ここのエリアの方には本当に申しわけないのですけれども、我々としては再編の中でそういう苦渋の決断をせざるを得ないので、本当に申しわけないのですけれども、やはり統合新校についても引き続き同じようにご支援いただければなと思っております。

また、先ほど山田委員からもご発言がありましたが、やはり跡地のところがここに限らず、やはりちょっと中野区はお金がないのもあるのでしょうけれども塩漬けになっていますので、そこら辺は教育委員会の所管ではないので我々も直接どうこうはできないのですけれども、事務局の方も関連部署と調整してなるべく早く動くようにということでお話をされているので、我々としてもそれを後押ししたいなと思っております。

大島委員

「はじめに」のところの修正についてもいいのですか。

済みません、「はじめに」という文章を修正していただいたことに関してなのですが、今もお話に出ていましたように、もともとの文章が規模の適正化というところに重点が置かれていたけれども、「小中の連携推進というところももう少し入れたらどうか」というご意見を取り入れて下線の部分を加筆していただいたのだと思うのです。ただ、小中学校の連携を重視しているという点から見ると、ちょっと表現が、私としては弱いというか、ちょっと不十分な気がしまして、もうちょっと「小中学校の連携」というのを重点を置いたような表現にさせていただくといいかなと思ったのですが。

高木委員長

このところは、できれば具体的にこういうふうにということでご発言いただけると事務局もやりやすいのですが。

大島委員

例えば、「小規模化を解消するとともに、小中学校の連携を重点として進めてまいりたいと考えております。それに伴い学校と地域、家庭との連携の推進も図ってまいります」とか。ちょっと文章が稚拙かもしれませんが、そんなふうに。続けてしまわないで「小中連携の推進を重点として考えております」とか、ちょっと一つ切って、次に「学校と地域との連携も」みたいな、例えばですけれども、そんなふうにするだけでも。

飛鳥馬委員

「はじめに」という文章をずっと読んでみると、「はじめに」の5行目ぐらいは前文で、「このことにより」というところから5～6行がほとんど小規模化の対応みたいなことが書いてあるのです。そして、連携は一つも出てこないわけです。要するに内容的に見ると連携については、だから、今、大島委員が言われたように、連携についてを上に書いたものと同じぐらい分量という、内容的に入れてよろしいのかどうかという問題があるのだと思うのですけれども。入れれば非常にバランスがとれて、小中、地域との連携もあるのだなという、最後の3行ぐらいでまとまってくると思うのです。これだけずっと流して読むと、ほとんど連携の説明がないのでという、違和感を感じます。もうちょっとボリュームがあったほうがわかりやすいと思うのですけれども。

副参事（学校再編担当）

それでは、今「はじめに」の部分についてのご意見をいただきました。事務局としての考えを少し述べたいと思います。

下線部ですけれども、この部分につきまして「教育委員会では、新たな教育課題への対応を図るため、学校の小規模化を解消するとともに、小中学校の通学区域の整合性をできる限り図り、小中学校の連携を推進してまいります。また、学校と地域、家庭との連携の推進など、学校教育の充実を目指していきます」というような文章を考えてみました。

いかがでしょうか。

大島委員

大変すばらしく修正していただいて、これで結構かと思います。

高木委員長

それでは、本日の協議をもちまして、当委員会として中野区立小中学校再編計画（第2次）についての協議が整ったことを確認したいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

高木委員長

それでは、次回の定例会において中野区立小中学校再編計画（第2次）を議決案件として審議したいと思いますので、事務局は準備をお願いします。

なお、今後、言葉の「てにをは」等軽易な修正があるかもしれませんので、その件については教育長に一任したいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

高木委員長

それでは、軽易な修正については教育長に一任することといたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第1回臨時会を閉じます。お疲れさまでした。

午後8時17分閉会